

三重大学

【NO 49 三重大学】

| | |
|-------------------|--|
| | 三重大学 教員養成分野 |
| 学部等の教育研究 組織の名称 | 教育学部（200名） 教育学研究科（M：41名） |
| 沿革 | <p>明治8年（1875年） 三重県師範有造学校を設置</p> <p>明治10年（1877年） 三重県師範学校を設置</p> <p>昭和24年（1949年） 三重大学学芸学部を設置</p> <p>昭和41年（1966年） 学芸学部を教育学部に改称</p> <p>平成元年（1989年） 教育学研究科（修士課程）を設置</p> <p>平成2年（1990年） 情報教育課程を設置</p> <p>平成9年（1997年） 生涯教育課程を設置</p> <p>平成11年（1999年） 人間発達科学課程を設置</p> |
| 設置目的等 | <p>三重大学教育学部・教育学研究科の母体の一つである三重県師範有造学校は、初等教員の養成（師範教育）を目的として明治8年に設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、旧制諸学校である三重師範学校、三重青年師範学校を総括して、三重大学学芸学部として承継された。</p> <p>その後、ベビーブームによる児童生徒の急増を背景に、学科・定員が拡充された。また、教員採用者数の減少による教員就職率の低下に伴い、平成2年から平成11年にかけて、教員養成課程の一部を、教員以外の職業分野の人材や高い教養と柔軟な思考力を身につけた人材を養成することを目的として新課程への改組が行われ、教員養成課程の入学定員を縮小したが、団塊世代の教員の大量退職を迎え、教員の大量採用に備えて平成18年に新課程の入学定員を縮小し、教員養成課程の入学定員を拡充した。</p> |
| 強みや特色、 社会的な役割 | <p>○ 三重大学の教員養成分野は、三重県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す大学として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、三重県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本的な目</p> |

標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図るものとする。このため、学部運営においては特に以下の二点について取り組む。

i 実践的指導力の育成・強化を図るため、現在約10%の学校現場で指導経験のある大学教員を、第2期中期目標期間における教員研修のための大学院改革と連動させつつ、第3期中期目標期間末には、20%を確保する。

さらに、学校現場で指導経験のない大学教員の実践的指導力の育成・強化を図るべく、第3期中期目標期間末までに該当全教員が複数回附属学校園・協力校等で授業を行う。

ii 学部に教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長等が構成員となる常設の諮問会議を設置し、学部や大学院のカリキュラムの検証、養成する人材像、現職教員の再教育の在り方などについて定期的に実質的な意見交換を行い、教育への社会の要請を受けとめ、その質の向上を図る。

○ 学士課程教育では、附属学校や公立の連携協力校等を積極的に活用するなど、実践的な能力を育成しつつ、教科及び教職に関する科目を有機的に結びつけた体系的な教育課程を編成し、質の高い小学校教員を養成することによって三重県における教員養成の拠点機能を果たしていく。

なお、卒業生に占める教員就職率は現在78%であり、三重県における小学校教員養成の占有率について、現状は26%（新卒者15%、既卒者11%）であるが、第2期中期目標期間における改革を行いつつ、占有率について第3期中期目標期間中は、平成26年度改組（各コースに初等教育選修を設置、改組後最初の学生が平成30年度に採用）と、教員及び教職支援室の連携による細やかな個別指導によって、新卒者を23.4%（68人）に上げ、既卒者の合格者を合わせて102人以上として、35%を確保する。さらに、教員養成に関する大学全体の機能を活用するなど、総合大学の特性を活かして質の高い中学校教員等を養成する。

○ 三重県教育委員会等との連携・協働により、第3期中期目標期間中に大学院教育学研究科に教職実践専攻（仮）を設置することによって、現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導的理論と優れた実践力・応用力を備えたスクー

ルリーダーを養成する。このため、実務家教員と研究者教員のチーム・ティーチングによる授業を拡充するなど、理論と実践を架橋した教育の拡充を図る。

なお、大学院修士課程の修了者（現職教員を除く）の教員就職率は、現状は68%であるが、平成24年度実施の隣接教科統合による大括り化及び実践的カリキュラムの充実に加えて、第2期中期目標期間における改革を行いつつ、第3期中期目標期間中に大学院教育学研究科に教職実践専攻（仮）を設置し、高度教員研修を行う。その実績を踏まえて、教職大学院の設置を予定する。

- 附属学校等と協働して学校における実践的課題解決に資する研究活動を行うとともに、免許状更新講習の実施、教育委員会等が行う現職教員研修のプログラム開発、校外研修への組織的な参画により、我が国の教員の資質能力向上に寄与するなど、教員の研究活動等を通じて積極的な社会貢献活動を行う。